

## 令和3年度後学期 授業評価アンケート結果のまとめ

※この後学期も、前学期に続き原則対面で授業をおこなったオミクロン株の影響が出始めた年明けの授業は感染や濃厚接触を理由とする欠席者が増えたが、学内でのクラスター発生は無く、最後まで対面授業を継続することができた。

### 1. アンケート実施方法

(ア) 評価対象は全授業。

(イ) Web アンケート方式で、授業の最終回に学生に説明して回答を求める。

### 2. アンケートの内容：設問と選択肢は前学期と同じもので実施。

(ア) 設問1：授業方法について6項目、設問2：授業内容について4項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ10：5：0の10点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100点満点）とする。

(イ) 設問3：授業で身に付いた力。DPに示された6つの力に対応する項目に対して、当てはまると思うものを選択する。

(ウ) 設問4：履修の動機および1回の授業あたりの予習・復習に費やす時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。

### 3. 解析結果：履修登録人数15名以上、回答数10名以上の全授業に対する回答を対象とした。回答率は65.1%と前学期よりも若干減少した。

(ア) 設問1・設問2の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて図1に示した。前学期と比較して、一見ただけでは区別が付きにくいほど類似した結果となっている。また、図2には、対象科目すべての総合評価点の分布を示した。こちらも、全体的な様子は前学期の結果とほぼ同じとなった。

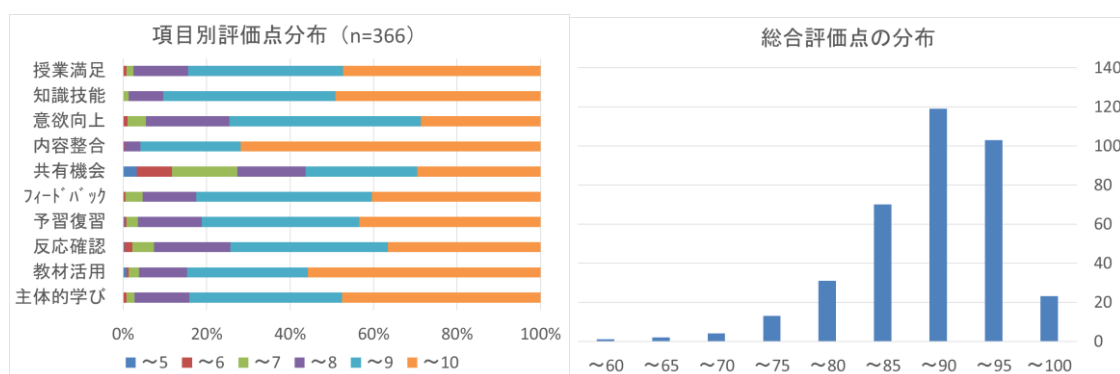


図1 項目別評価点の分布

図2 総合評価点の分布

(イ) 図3に設問4で回答された授業1回あたりの予習・復習時間の割合を、図4に設問3で回答された各授業で身に付いた力6項目の選択率を示した。いずれの結果も、前学期のものとはほとんど違いが認められない。

(ウ) 前学期と後学期では実施される授業の多くが異なるにも関わらず、ここで示した結果に顕著な差は認められなかった。昨年度の結果では、全体の様子は類似していても個々には異なる点を確認されていたので、アンケート自体に問題があるのでは無いと思われる。今後、科目分野別、教員あるいは学生の属性別等で詳しい分析をおこなったり、2つの項目をクロスした分析をおこなうなどして、結果に違いが生じるかどうかを確認してみたい。それにより、更なる授業改善につながる糸口が見いだせればと考えている。

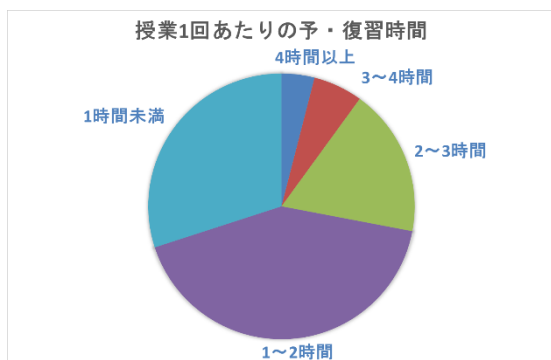


図3 授業外学修時間 (全体)

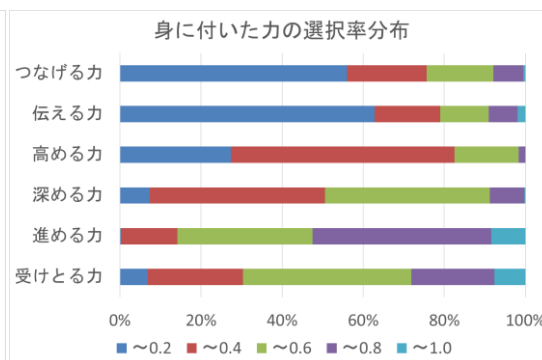


図4 授業で身に付いた力の選択率分布